

JGA加盟倶楽部説明会

JGAハンディキャップ規定
(USGAハンディキャップシステム準拠)

JGA/USGAコースレーティングシステム
概要のご説明資料



2012年3月
JGAハンディキャップ委員会

■はじめに

JGAハンディキャップ規定（USGAハンディキャップシステム準拠）

および

JGA／USGAコースレーティングシステムの導入について

当協会ハンディキャップ委員会では、2007年より数年に渡りJGAハンディキャップが含有する問題点とその解決方法について調査研究を実施し、すべてのゴルファーにとって「より公平で、より使い易い」ハンディキャップという観点から、目指すべき将来像を模索して参りました。

その間、委員会内外の皆様から様々なご意見を頂戴し、海外のハンディキャップとの比較検討を重ねた結果、現在世界約60の国と地域で採用されているUSGAのハンディキャップ運用方法を導入することが最も望ましいと判断し、今回の導入に至った次第です。

ご周知の通り、ハンディキャップは他のスポーツには無いゴルフ特有の制度であり、誰でも公平にゲームを競えるというゴルフの本質的価値・魅力の源です。

今回の主目的は、この「ハンディキャップを使ったゴルフの楽しさ」をより多くのゴルファーが享受できる環境をつくることによって、当協会の使命である「ゴルフ普及」を推進していくことです。

JGAは本年度よりUSGAハンディキャップシステムの本格的な準備段階に入り、2014年から正式に「JGAハンディキャップ規定（USGAハンディキャップシステム準拠）」の運用を開始いたします。

まずは本案内書にて概要をご説明申し上げますので、ご一読いただき、その主旨、内容についてご理解をいただき、スムーズな移行にご協力賜りますようお願い申し上げます。

2012年3月

JGAハンディキャップ委員会

委員長 諸戸精孝

■ハンディキャップ制度改革の趣旨

経済低成長および少子高齢化の時代を迎えた我が国において、ゴルフ界を取り巻く環境は今後ますます厳しくなることが予想されています。特に2015年以降は、現在ゴルフ人口の中核を占めているシニア層が減少傾向に転じると見られており、日本の総人口減少が避けられない状況となった現在においては、「プレー促進」と「ゴルファー人口維持・拡大」に向けた新たな取り組みが必要となっています。そこでJGAとしては、いまこそ改めてゴルフが持つ本当の素晴らしさ、すなわち「ゴルフの本質的価値」を広めていくことが将来の日本のゴルフ発展に向けて非常に重要であり、そのために「より公平で、より使い易い」ハンディキャップが必要不可欠と考えています。

ハンディキャップとは？

**「いつでも」「どこでも」
「誰とでも」「公平に」
ゲームを楽しめる**

**ゴルフ特有のバリュー
(他のスポーツにはない)**

- 他のスポーツには無いゴルフ特有の利点は、性別、年齢、体力、技量などの差を問わず、誰でも公平にゲームを競い合えることです。そして、このことを可能にしているのは「ハンディキャップ」です。
- 互いの技量を正確に表したハンディキャップがあれば、正式な競技会に限らずプライベートでラウンドでも、「いつでも、どこでも、誰とでも公平に」ゲームを楽しむことができ、このことはゴルフが持つ最大の魅力です。

ハンディキャップの利点を活かすために…

使って楽しめるハンディキャップ

誰とでも使える
(すべてのゴルファーが公平に競える)

どこでも使える
(すべてのコースで公平に競える)

- ハンディキャップの利点を活かすには、「使って楽しめる」ハンディキャップシステムが必要です。
- そのためには、「誰とでも使える」と、「どこでも使える」ことが欠かせません。これら2つの要素を備えたシステムがあれば、ゴルファーはハンディキャップを使ってゲームを「楽しむ」ことができるのです。

オフィシャルハンディキャップの意義・使命

ゴルファーのための統一基準

公平な競技の促進・普及
(競技レベルの向上に繋がる)

ゴルフ本来の魅力を広める
(プレー促進・活性化に繋がる)

- すべてのゴルファーの技量を統一基準で量ることにより、公平な競技を促進・普及することができ、競技レベルの向上に繋がります。
- 「誰とでも、どこでも」ハンディキャップを使える環境を整えることにより、ゴルフ本来の魅力を多くのゴルファーに広め、ゴルファー同士の交流促進や、様々なコースでのプレー意欲向上に繋がります。

■ハンディキャップの歴史(概略)

年代	欧米	日本
17世紀後半	HDCPの概念広まり始める	
1900年頃	英国女子連盟が初のCR開発	
1911年	USGAが初めてCR導入 (全米アマ優勝者のスコア)	
1920年代～	全米各地区で改善策考案	1950年代 JGA HDCP制度導入 (USGA制度を参考に開発)
1960 ～70年代	障害難易度査定法を考案 現行HDCP制度の基礎完成	1978年 現行JGA制度施行 (USGA制度を参考に開発)
1979年	スロープシステム開発着手	
1987年	スロープシステム正式施行	
2011年	世界約60の国と地域で採用	2010年 スロープ導入決定 (USGAとJGAが正式契約締結)

「公平性」追求・問題点解決の
歴史

■JGAハンディキャップの問題点

JGAハンディキャップは、1950年代初頭に当時のUSGAシステムを参考にして開発されたものが原型となっており、スクラッチゴルファーの想定スコアを表したJGAコースレーティング（通称スクラッチレーティング）と実際のスコアとの差（ディファレンシャル）に基づいてHDCPの計算をします。しかし、スクラッチレーティングのみを用いた計算方法にはHDCPの公平性・互換性に問題が生じることが分かりました。

JGAハンディキャップの基本的な仕組み（概略）

スコア
(調整グロス)

—

JGAコースレーティング
(スクラッチレーティング)

=

JGAハンディキャップ
(少数第1位)

主な問題点の例

倶楽部 A
(CR : 74.0)
HDCP15

≠

倶楽部 B
(CR : 69.0)
HDCP15

倶楽部 A のHDCP15と倶楽部 B のHDCP15に 技量差が生じる→「公平に競えない」

- コースレーティング74.0の倶楽部Aに所属するHDCP15のプレーヤーと、コースレーティング69.0の倶楽部Bに所属するHDCP15のプレーヤーは、同じHDCPを持っているにも拘わらず技量差が生じる。そのため、HDCPを使って対戦したときに公平に競うことができない。

倶楽部間でHDCP互換性がない

問題が生じる原因

倶楽部 A
CR : 74.0

—

倶楽部 B
CR : 69.0

=

難易度差
5.0

スクラッチゴルファー以外のプレーヤーにとって、
倶楽部 A と B の難易度差は5打ではない！

スクラッチゴルファー以外
の難易度を表す尺度が無い

CRはスクラッチゴルファーにとっての コース難易度

- HDCP計算の基となっているコースレーティングはスクラッチゴルファーにとってのコース難易度を表すものであり、スクラッチゴルファー以外のプレーヤーにとっての難易度は反映されない。
- ゴルファーの技量差によるスコアの変動幅は、一般的に難易度の高いコースでは大きく、難易度の低いコースでは小さくなるが、スクラッチレーティングではこの変動幅をカバーすることができない。

■スロープシステムとは？

スロープシステムは、USGAが1980年代に10年以上の歳月をかけて開発したハンディキャップ運用方法です。それ以前のアメリカでは、現在のJGAと同様にスクラッチレーティングのみを用いたHDCP計算方式を採用していましたが、公平性・互換性の問題を解決するために、ゴルファーの技量に応じた新しいコース難易度（スロープレーティング）を取り入れた運用方法を開発しました。

スロープシステムの基本的な仕組み



スロープシステムの主な特徴

- ▶ 従来のスクラッチレーティングに加えて、HDCP20前後のゴルファー（ボギーゴルファー）の想定スコアを表すボギーレーティングを、スクラッチレーティングと同様の方法で査定。2つのレーティング差（即ちスコア差）を標準化することにより、全ての技量のゴルファーに汎用できるスロープレーティングを算出。

スロープレーティング算出方法:

男子: (スクラッチレーティング - ボギーレーティング) × 5.381
女子: (スクラッチレーティング - ボギーレーティング) × 4.24

スロープレーティング	55	---	113	---	155
難易度	低	---	標準	---	高
スコア差(男子)	約10	---	21	---	約29
スコア差(女子)	約13	---	26.65	---	約37

- ▶ ゴルファー個々のHDCPをインデックス（指標値）とし、プレーするコースのスロープレーティングに基づいて適切なコースHDCP（実際にプレーする際のHDCP）に換算する。これによって、全ての技量のゴルファーがコース難易度に応じた公平なHDCPでプレーを楽しむことができる。

コースHDCP計算方法: HDCPインデックス × スロープレーティング ÷ 113（小数点以下四捨五入）

- ▶ HDCPインデックスの計算方法の基本的な考え方はJGAハンディキャップと同様だが、ディファレンシャル計算にスロープレーティングを反映させることによって数値の正確性を高めている。

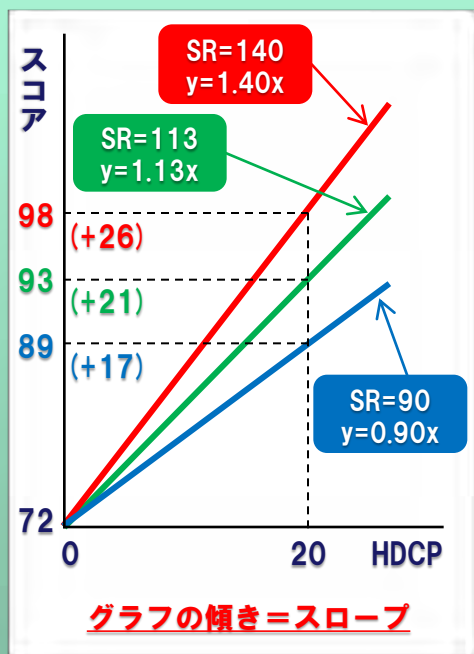
HDCPインデックス計算方法: (調整グロススコア - スクラッチレーティング) × 113 ÷ スロープレーティング
20枚中10枚のベストディファレンシャル平均 × 0.96（小数点第2位切り捨て）

■スロープレーティングとは？

膨大なスコアデータを綿密に統計分析し、ゴルファーの技量とコースの難易度によるスコアの変動を標準化したものがスロープレーティングです。従来のスクラッチレーティング（スクラッチゴルファーの想定スコア）に加えて、新たにボギーレーティング（ボギーゴルファーの想定スコア）という尺度を設け、両者の数値差に基づいて算出します。スクラッチレーティングとボギーレーティングの差が大きければスロープレーティングは高くなり、その差が小さくなればスロープレーティングは低くなります。

すべての技量のゴルファー難易度を反映したレーティング

⇒スロープレーティング（SR）



スクラッチレーティング
ー) ボギーレーティング

スコア差

×) 係数5.381

スロープレーティング
(55~155・標準値113)

すべてのゴルファー
すべてのコースに対応できる
互換性を確保

	スクラッチゴルファー定義		ボギーゴルファー定義	
	男子	女子	男子	女子
HDCPインデックス	0	0	20前後 (17.5~22.4)	24前後 (21.5~26.4)
ティーショット飛距離	250	210	200	150
2オン可能な距離	470	400	370	280

■スロープシステムの仕組み「使い方・プレー方法」

スロープシステムは、ハンディキャップインデックスとスロープレーティングの組み合わせによって運用するシステムです。ゴルファーは自分のハンディキャップインデックスを、プレーするコースの各ティーインググラウンドに設定されたスロープレーティングに応じて、適正なコースハンディキャップ（いわゆるプレーイングハンディキャップ）に調整してプレーします。

コースハンディキャップは基本的に難易度の高いコース（ティーインググラウンド）では多くなり、難易度の低いコース（ティーインググラウンド）では少なくなります。ゴルファーの技量（つまりHDCPインデックス）によってその増減幅が変わるため、技量の異なるゴルファーでも常に公平なコースハンディキャップで競い合うことができます。

またスロープレーティングは各ティーインググラウンドに設定されるため、異なるティーインググラウンドからプレーするゴルファー同士でも公平なコースハンディキャップで対戦することができます。

プレーするティーの難易度に基づいた適正なHDCP [HDCPインデックス×SR/113=コースHDCP]			
HDCP インデックス	Slope Rating	コースHDCP (四捨五入)	Index との差
25.0	140	31	6
	113	25	0
	90	20	-5
4.0	140	5	1
	113	4	0
	90	3	-1

ティーインググラウンド毎にコースハンディキャップ換算表（男女別）を用意することで、面倒な計算をしなくても、その日使用するコースハンディキャップが分かります。（P13参照）

■スロープシステムの仕組み「HDCP計算方法」

HDCPインデックスの計算方法は、現在のJGAハンディキャップ計算方法と基本的にほぼ同じですが、ディファレンシャルの計算式にスロープレーティングの数値を組み込みます。このことにより、プレーしたコースの難易度に基づいてスコアを適正に評価し、ディファレンシャルを正確に計算することができます。例えば、同じスコア（調整グロス）でも、プレーしたティーインググラウンドのスロープレーティングが標準（113）よりも高ければ（つまり難易度が高ければ）、ディファレンシャルは少なくなり、反対にプレーしたティーインググラウンドのスロープレーティングが標準よりも低ければ（つまり難易度が低ければ）、ディファレンシャルは多くなります。

**スコアをコース難易度に基づいて適正に評価し、
ディファレンシャルを正確に計算**
〔（調整グロス－CR）×113／SR＝ディファレンシャル〕



HDCPインデックスの査定方法

（調整グロススコア－CR）×113／SR＝ディファレンシャル

➤ 調整グロスはストロークコントロール後

20枚中10枚のベストディファレンシャル平均×0.96
＝HDCPインデックス（少数第2位切り捨て）

➤ 最新のスコア5枚中1枚からインデックス取得可

■スロープシステムのメリット

スロープシステムを導入し、ハンディキャップを活用したゴルフ本来の楽しさを広めていくことにより、ゴルファーのプレー促進やゴルフ界活性化に繋がる様々なメリットが考えられます。

互換性を追求した 世界で唯一のシステム

最も公平で正確なHDCP運用

- 公平性と正確性は、既に世界で立証済み。
- 初めてのコースでもコースHDCP（実際にプレーする際のHDCP）から適正な目標スコアを設定できるので、色々なコースで腕試しをしたいと思うゴルファーを増やせる。
- ビジターとしてラウンドするゴルフ場でも適正なコースHDCPでプレーできるので、倶楽部間のゴルファー交流を促進し、ラウンド回数の増加が見込める。
- 運に左右されるダブルペリア等でなく、実力で競い合う面白さを多くのゴルファーに味わってもらうことができる。
- 技量を正確に表すHDCPインデックスを持つことで、ゴルファーの向上意欲が増す。
- どのティーインググラウンドでプレーしても、適正なコースHDCPでプレーすることができるので、倶楽部の月例競技などのクラス分けも不要になる他、男女混合同一競技などにも対応できる。
- スロープレーティング（スクラッチレーティングも同様）は、あくまでもゴルファーの技量に対して適正なHDCPを導き出すための難易度であり、コースの善し悪しを評価する数値ではありません。難易度の高低に関わらず、実力に則してプレーを楽しむことがゴルファーの満足に繋がります。

世界約60の国と地域で採用

グローバルスタンダードに対応

- スロープシステムは世界約60の国と地域で採用されているので、海外からの集客にも効果が見込める。（スコットランドをはじめ、韓国、中国、台湾等もスロープ採用）
- オリンピックに向けた、日本のゴルファーのレベル底上げや、グローバル化にも効果的。

新しいゴルフの楽しみ方を提供

楽しみ方の幅を広げて ゴルフ界の活性化を図る

- 取得するためのオフィシャルHDCPではなく、使って楽しむためのオフィシャルHDCP。
- 異なるティーインググラウンドを使用して対戦したり、マッチプレーやその他様々な競技方法に対応可能なので、いままで馴染みがなかった新たな遊び方を提供できる。
- HDCPを使ったゴルフの楽しさを広めることにより、性別、年齢、技量の差を問わず誰でも公平にゲームを競えるという、他のスポーツにはないゴルフの素晴らしさを広めることができる。
- HDCPインデックスとスロープレーティングがあれば、「いつでも、どこでも、誰とでも、公平に」ゲームを楽しむことができる。

■スロープシステムの根幹理念

スロープシステムは、倶楽部の存在なくしては成り立ちません。HDCPインデックスは倶楽部を通してゴルファーに発給され、倶楽部のハンディキャップ委員会が、スコアの検証など不正防止のチェック機能を司ります。このことによって、はじめてスロープシステムの公平性が保たれるのです。

JGAハンディキャップ規定（USGAハンディキャップシステム準拠）では、システムの根幹について、以下のように明記しています。

スロープシステムは2つの前提条件を根幹としており、この前提条件を順守することは、プレーヤーとハンディキャップ委員会の共同責任である。

- **各プレーヤーはプレーする場所に拘わらず毎ホール最善のスコアを目指す。**
- **プレーヤーは採用可能なスコアをすべて提出し、スコアの検証を受ける。**

■スロープシステム導入に向けたスケジュール(予定)

2014年の本格導入にむけて、本年より段階的に移行準備作業を進めております。ゴルフや加盟倶楽部の皆様に対して負担や混乱を与えないよう、スムーズな移行を目指して参りますので、ご理解ご協力下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

年	内容
2011年	●レーティング査定方法をUSGA方式に変更 ●CR有効期限を15年から10年に変更
2012年 ～13年	●スロープレーティング付与開始(査定済み倶楽部から順次) ●名称変更 JGAコースレーティング→「JGA/USGAコースレーティング」 JGAハンディキャップ→「JGA/USGAハンディキャップインデックス」 (HDCP計算方法は従来のJGA方式のまま) ●各種説明会開催 ●試験導入(スロープ査定済み倶楽部など) ●PR計画推進
2014年	●新ハンディキャップ制度に完全移行 ハンディキャップインデックス計算方法がUSGA方式に変更

■スロープシステムとJGAハンディキャップの主な相違点

	スロープシステム	JGAハンディキャップ
運用	ハンディキャップインデックス コースハンディキャップ	JGAハンディキャップ
スコアの検証	倶楽部のHDCP委員会	特に規定なし
提出するカード	すべての採用可能カード 18ホール(13H以上) 9ホール(7～12H)	すべてのカード 18ホール
提出カード枚数	20枚中ベスト10枚 ・5～6枚 ⇒ベスト1枚 ・7～8枚 ⇒ベスト2枚 ・9～10枚 ⇒ベスト3枚 ・11～12枚 ⇒ベスト4枚 ・13～14枚 ⇒ベスト5枚 ・15～16枚 ⇒ベスト6枚 ・17枚 ⇒ベスト7枚 ・18枚 ⇒ベスト8枚 ・19枚 ⇒ベスト9枚 ・20枚 ⇒ベスト10枚	10枚中ベスト5枚
HDCP更新期限	2週間以上1ヶ月以内に1回 承認されたゴルフ協会が設定	証明書有効期限6ヶ月
ストローク コントロール	コースHDCP スコア上限 9以下 ⇒ダブルボギー 10～19 ⇒7 20～29 ⇒8 30～39 ⇒9 40以上 ⇒10	HDCP スコア上限 +～0.4 ⇒1オーバー 0.5～18.4 ⇒2オーバー 18.5～36.4 ⇒3オーバー 36.5～50.5 ⇒4オーバー
HDCP上限	男子36.4 女子40.4	男女とも50.0
トーナメントスコア	トーナメントでの優れたスコアをHDCP査定に 追加採用	特に規定なし
特殊な競技での 運用	団体戦、男女混合競技、異なるティーを使用 する競技などでのHDCP運用方法を規定	特に規定なし

■コースハンディキャップ換算表(サンプル例)

コースハンディキャップ換算表

発行: 日本ゴルフ協会
 倶楽部名: JGAゴルフ倶楽部 Tee: バックティー
 スロープレーティング: 140
 JGA/USGA コースレーティング: 72.7 ボギーレーティング: 98.7
 性別: X 男子 女子

JGA/USGA ハンディキャップ インデックス	コース ハンディキャップ	JGA/USGA ハンディキャップ インデックス	コース ハンディキャップ
+3.5～+2.9	+4	16.6～17.3	21
+2.8～+2.1	+3	17.4～18.1	22
+2.0～+1.3	+2	18.2～18.9	23
+1.2～+0.5	+1	19.0～19.7	24
+0.4～0.4	0	19.8～20.5	25
0.5～1.2	1	20.6～21.3	26
1.3～2.0	2	21.4～22.1	27
2.1～2.8	3	22.2～23.0	28
2.9～3.6	4	23.1～23.8	29
3.7～4.4	5	23.9～24.6	30
4.5～5.2	6	24.7～25.4	31
5.3～6.0	7	25.5～26.2	32
6.1～6.8	8	26.3～27.0	33
6.9～7.6	9	27.1～27.8	34
7.7～8.4	10	27.9～28.6	35
8.5～9.2	11	28.7～29.4	36
9.3～10.0	12	29.5～30.2	37
10.1～10.8	13	30.3～31.0	38
10.9～11.7	14	31.1～31.8	39
11.8～12.5	15	31.9～32.6	40
12.6～13.3	16	32.7～33.4	41
13.4～14.1	17	33.5～34.3	42
14.2～14.9	18	34.4～35.1	43
15.0～15.7	19	35.2～35.9	44
15.8～16.5	20	36.0～36.7	45

上記は、スロープレーティング140の場合の男子用換算表です。例えば、JGA/USGAハンディキャップインデックス17.3のプレーヤーが、スロープレーティング140のティーインググラウンドでプレーする場合、換算表から該当する欄「16.6～17.3」を選び、その日のラウンドはコースハンディキャップ「21」でプレーします。